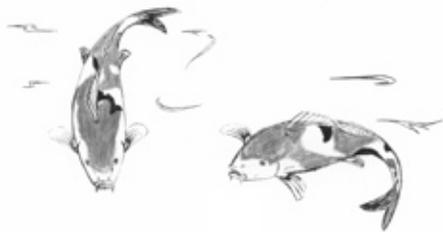

慈 恵



令和 4 年 No.78

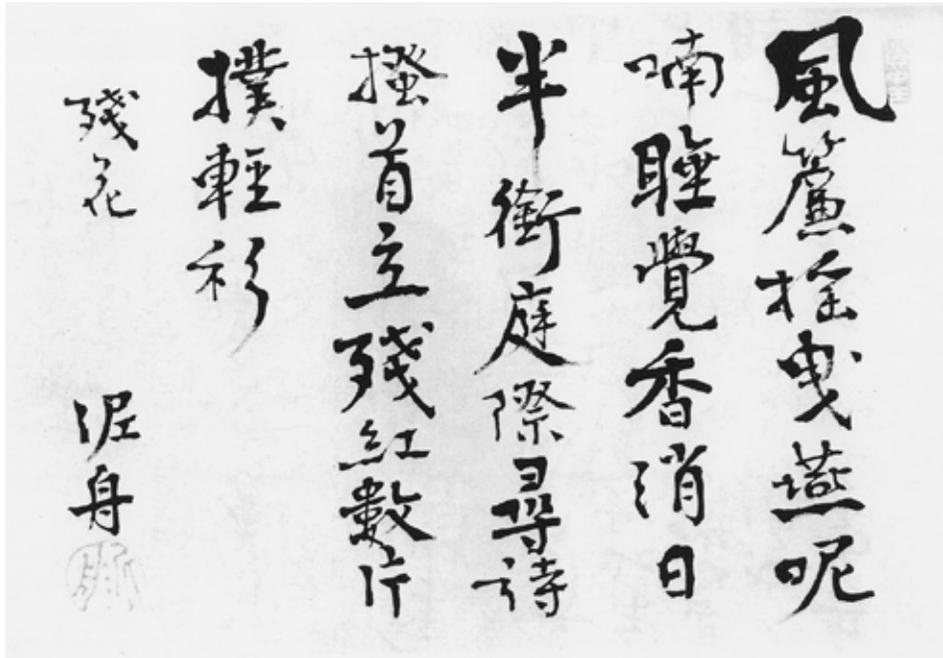


春

宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

賞鑑



風簾揺曳燕呢喃

睡り覚め香消え日に半ば銜む

庭際詩を尋ねて首を搔いて立てば

残紅数片輕衫を撲つ

残花 泥舟

高橋 泥舟

幕末の幕臣。槍術に秀で、国事に通じ、講武所教授となり、一八六三年（文久三）新徴組を統率。鳥羽伏見の戦後、恭順謹慎説を主張。江戸城明渡し後は徳川慶喜を護衛。山岡鉄舟・勝海舟と共に幕末三舟と称。（一八三五—一九〇三）

「三舟及び南洲の書」より

坐禅で魔を退散さす

岐阜県伊尾村に生まれた海州は、九歳の年に同国多羅村の観音寺大鸚和尚のもとで出家した。その後、十六歳の年に総見寺の卓洲胡僊和尚たくじゅうこせんに相見して参究し、数カ月をへて省悟するところがあった。

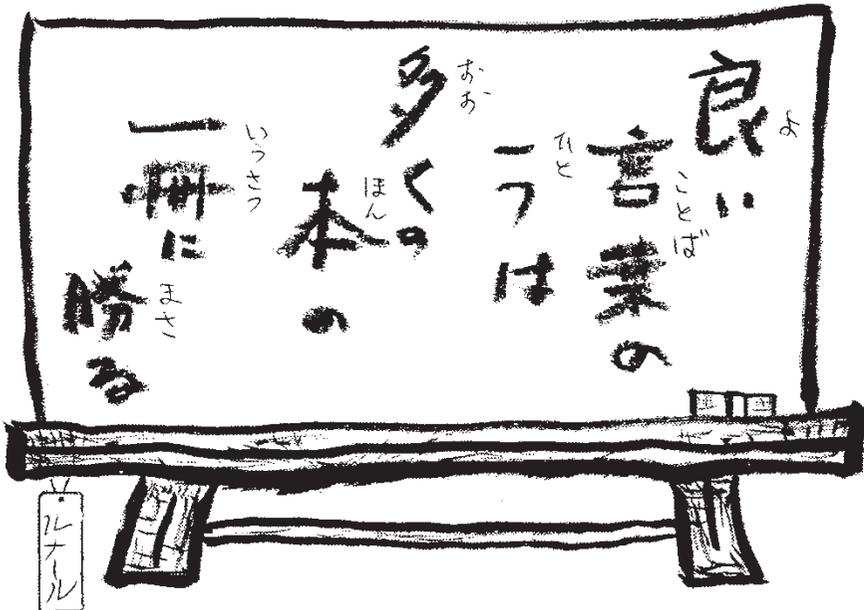
その翌年、海州は郷里に帰ったが、そのころ、隣村の鑑治村で不吉な出来事が続いていた。村人たちは、これはきつと何かの祟りに違いないと気を病み、伊尾村に帰っていた海州に魔退散をしてくれるように頼みに来た。海州は鑑治村に出かけ坐禅を組んだ。その途端に今まで続いていた怪事はパタリと止んだ。その後、十九歳の年に再び卓洲に参じ、以後七年の間、一度も夜具について寝ることもなく日夜参究にはげみ、ついに宗門の奥義を究め尽くしたという。

「禅門逸話集成」より

海州かいしゅう 楚棟そとう (二八〇八〜一八七八)

臨濟宗。美濃の人。卓洲の印記を受け、のち円福僧堂をへて、尾張長寿寺の瑞応の法を嗣ぎ、近江の永源寺に入った。

掲示板





犬、ハムスターとの 思い出

八王子市 平松 暖音(14)

ぼくは、これまで犬を四匹とハムスターを一匹飼っていました。一匹は、今も生きています。他の三匹とハムスターは、亡くなってしまいました。まず今、一緒に過ごしている犬との思い出話をします。ジュールは保護犬です。最初来た時は、ゲージの中から出られずに怯えていました。ですが慣れていきました。最初は、大人しかつたけど今では、机にあるごはんをかってに食べてしまいます。ある日お散歩に行った時に橋から落ちてしまいました

た。ジュールは、治らない病気を抱えていて、目が見えないのとぼくの不注意でもあります。そこには、よく蜂がいました。近くにあった緊急用の梯子を使って助けました。家に帰って母に言った。とても怒られました。次は、亡くなってしまった犬達の話です。タルは、僕が生まれる前にいた犬です。テトと、モロとは、よく飛行機の公園に行っていました。家では、よく一緒に寝ていました。テトは、心不全で亡くなり、モロは、癌で亡くなってしまいました。飛行機の公園は、二匹の好きな公園でした。ハムスターのクロちゃん

は、僕のお誕生日に飼いはじめました。クロは寝起きの時は、よくぼくの事を噛んでいました。すぐ痛かったです。ジュールとは、よくお墓参りに行っています。時々テトとモロが好きだった飛行機の公園にも行っていません。テトとモロが亡くなったとても悲しかったです。犬のタル、テト、モロと、ハムスターのクロは慈恵院にお骨を預けています。そして僕は今日もお墓参りに行きました。これからもお墓参りに行きます。ジュールを大切に生きて過ごしていきます。

悲しみのさき

国立市 脇田 みのり(40)

ほんの30分前までは確かに息がありました。お腹にできものが出来て、段々大きく硬い物は食べられなくなり、水分の多いスープ状の物しか食べなくなり、トイレをするにも大儀そう、水を飲むにも足がよたつくようになりました。年を16歳ともう若くはないので最後のほうは動物病院にもかからず、家で静かに過ごさせてあげようと決めました。3日くらい前からほとんどご飯は食わず、水も舐めるくらいでほとんど横倒しになるように寝ていたのでそろそろお迎えがくるのは薄々わかっていました。それからなるべく目を離さないように、用事がある時も視界の隅にその小さな体を捉えながら家の中も移動して行きました。30分前まではまともにも何も食べないためすっかり薄く小さくなった体の中心、胸からお腹にかけて、かすかに上下しており、呼びかけもかすかに反応して行きました。覚悟はしていたことですが、ついさっきまで息をしていたという事実とすでに死んだがせめぎ合い、気持ちの折り合いがなかなかつき

ませんでした。今まで家族の一員として一緒に楽しい時間を過ごしており、後悔もまったくありません。16歳という年齢を鑑みれば大往生と言っているくらいです。病気を患ってからはほとんどの時間を寝て過ごし、トイレも自力では思うように済ませられなくなりました。以前とくらべて手のかかることが増え、面倒だなと思ったこともありました。それでも生きていたのと死んでしまったのでは大違いであることを痛感しました。悔やむことはひとつもありませんが、まだまだ一緒に過ごしたかったです。

体が火葬される時も同じように感じました。その子の体がまだあるという事実と火葬されて遺骨になっちゃった事実が地続きなっていることが、しばらく実感できませんでした。それでもお骨になっちゃったとはいえず、また家に戻って来てくれたことは嬉しく思いました。

人の魂は49日忌まではあの世にはいかずこの世に留まっていると言います。この子の魂も今も近くに留まっているのかもしれない。このような考えが生まれるということとは少しは私の中で気持ちの折り合いがついてきたというのでしょうか。

あの子が使っていたベックトやご飯皿も片付けなければいけないと思うようになりまし。この喪失感が消えることはないのかもしれないが少しづつ明るく楽しい気持ちを抱く時間が増えてきたことは私にとっても嬉しいことです。

春ごよみ

5 月	4 月	3 月	
	4 / 3 <small>(花まつり)</small> 降誕会	3 / 24 明け <small>(春分の目)</small> 3 / 21 中日 3 / 18 入り 彼岸会	当山行事
● 5 / 21 小満 ● 薄荷草 (那須弥生)	● 4 / 20 穀雨 ● 伊勢の海の魚介豊かにして ● 穀雨 (長谷川かな女)	● 3 / 21 春分 ● 春分の入日笹子に 今滾つ (行人)	二十四節気
● 5 / 5 立夏 ● 鯛の尾の張りし立夏の 背負籠 (青木緑葉)	● 4 / 5 清明 ● 清明や垣根に白き 花ゆすら (岩見寐醒)	● 3 / 5 啓蟄 ● 啓蟄のもの驚かせ 午後の風 (星野立子)	祝日等
5 / 4 みどりの日 5 / 3 憲法記念日 5 / 2 八十八夜	4 / 29 昭和の日	3 / 3 上巳の節句 <small>(桃の節句)</small> <small>(雛祭り)</small>	
5 / 5 端午の節句 <small>(菖蒲の節句)</small> <small>(こどもの日)</small>			
5 / 8 母の日			

「こよみ事典」東京美術 参考

動物と暮らす

山村獣医科(東久留米市)

院長 山村 純一

くりですが杖なしでも歩けるようでした。そして、部屋に閉じこもり切りだったご主人も毎日犬と過ごす時間を楽しんでいた。聞き嬉しくなりました。

昨年、母親が飼っていた犬の世話をすることが難しくなり、その子を里子に出した。里親になって下さったのは、以前、飼犬が亡くなるまで当院に来て頂いていたAさんでした。個人的に見ず知らずの方に里子に出すのは、複雑な思いもあり、出来れば気心の知れている方に飼って頂けたらと思っていたので、とても安堵しました。

当初里子の話をAさんに伝えると、現在は健康に不安があり、膝が悪く

歩く事も儘ならないので飼ってあげるのは難しいと一度お断りを頂きましたが、後日対面する機会が訪れ犬を抱きかかえるとお気持ちにも変化が見られ、やっぱり飼いたいと言って里親になりました。

ひと月ほど経った頃、挨拶に来ましたとAさんが犬を抱っこして突然来院され、この日の為に1年以上乗っていないかった車を練習し始め一人で運転してきたと聞いてとても驚きました。また、ゆっ

ご家族の方は、母は体調不良からほとんど寝たきりのような状態だったので、この子を世話すること、元気になり○ちゃんパワーは凄いと喜んでいました。

最近では年齢を理由に動物を飼う事を否定的に考える方が多いですが、ご自身の元気の源になるのであれば動物と暮らす事を選んで良いのではないのでしょうか？

